



東洋公衆衛生学院 同窓会 会報 第17号

〒151-0071 東京都渋谷区本町 6-21-7 東洋公衆衛生学院 同窓会 事務局、
Tel 03-3376-8511 Fax 03-3376-4345 E-mail alumni@toyophc.com

コンテンツ

1. 令和6年度第1回、第2回 役員会報告
2. 学院の様子
3. 在校生の近況
4. 同級生からのメッセージ(連載)
～東洋公衆衛生学院と私～

令和6年度役員会報告

昨年に引き続き、対面参加とリモート参加のハイブリッド形式で役員会を開催しました。

第1回目は2024年7月19日(金)に行われ、委員会の再編成と委員長の選出、会員名簿のデータベース解約などが主な議題として上げられました。また、入学試験において同窓会推薦枠を新設したいと佐々木理事長から相談があり、同窓会としても前向きに検討することになりました。

第2回目は2024年10月18日(金)に行われ、データベースの契約終了に伴うデータの移管が済んだことが報告されました。議題としては委員会の再編成の結果や学院際での同窓会講演について話し合いました。同窓会講演は役員でもある診療放射線技術学科 23期生の藤村耕平さんがお引き受け下さいました。講演内容は次号でのご報告を予定しております。

現在、臨床検査技術学科・診療放射線技術学科共に役員を募集しております。我こそはという方はご連絡いただければと思います。

在校生の近況

～臨床検査技術学科からの近況報告～

1) 3年生(57期生)の様子

今年度の3年生は新カリキュラム完成年度の3年生です。臨地実習は5月からとなり、臨地実習 12 単位のうち、1 単位分の臨地実習技能修得到達度評価を 3 月に行いました。4 月は講義と臨地実習に向けての指導が入り、学生も教員もバタバタの毎日でした。

新カリキュラムからは消化管内視鏡見学が必須となり、生体機能の実習も 3 単位と増え、標準 12 誘導心電図や肺機能検査(スパイロメトリー)は患者さまを対象に『必ず実施させる行為』となりました。臨地実習をお願いしております諸先輩方の皆様に於いては、4 年制の旧カリキュラムと 3 年制の新カリキュラムが混合しお手順をおかけしたのではないかと思います。

学内での臨地実習技能修得到達度評価にて一定の基準を満たしてから臨地実習に出向いてはいますが、未熟な点が多々ありますのでご指導の程よろしく願いいたします。

臨地実習終了後の 8 月末には例年のごとく、臨地実習から国家試験に向けての気持ちの切り替えも込めて山中湖へ 1 泊で合宿に行ってきました。臨地実習が終了しホットしたのもあり、行き帰りのバスの中は賑やかで、この学年の元気が爆発していました。

現在は朝 8 時登校、講義を経て夜 19 時まで学内で勉強し、受験生一色となってきました。メンタル面が不安な学生もおりますが、ぜひ国家試験合格という成功体験を掴んで欲しいと思っています。



2) 2年生(57期生)の様子

今年度は体育祭が例年行っている、駒沢オリンピック公園総合運動場 屋内球技場工事のため高尾山山登りに変更になりましたが、大雨の影響でこれも中止となってしまいました。

日頃実習、勉強と毎日過ごしている学生の息抜きになってもらえたらと思いましたが、残念な結果となってしまいました。

現在では、新型コロナやインフルエンザの影響も少なく、ちょうど後期中間試験を終えたところです。

カリキュラム的に空き時間も少なく、日々勉強の毎日ですが、臨床検査技師を目指すスタンスは 1 年生の頃より明確になってきたのではないのでしょうか。3 年生と同様に放課後の自習時間には残って勉強する学生も多々います。また、ほとんどの学生は自己研鑽のために 12 月に試験が行われる日本不整脈心電学会 心電図検定 3 級に挑戦します。毎日送付される心電図波形や、講習会を経て挑戦していきます。一人でも多く、小さな成功体験を掴んで欲しいと思っています。



3) 1年生(58期生)の様子

年々入学希望者が減少する中、臨床検査技師を目指して入学してきた学生は、現在後期中間試験を終えるところです。4月当初に比較してだいぶ頼もしく成長してきていると感じます。2年生同様、初めての体育歳は中止となり、学内での行事が少ない中、友人同士の親睦も深めている様子です。

座学だけでなく実習科目も増え、初めての双眼顕微鏡の使用、血液塗抹標本作製・染色・観察、模擬腕を使用した採血実習など、より臨床検査の内容に近づいた学習になってきています。興味が湧く反面、学習内容も高度になってくるため、各自の成績の開きが顕著になってくる時期となります。私たち教員も精一杯フォローしていきたいと考えています。

～診療放射線技術学科からの近況報告～

1) 3年生(43期生)の様子

今年の3年生は例年になく人数の少ない学年です。多い年は80名ほどになることもありますが、今年は60人を下回っております。

臨床実習が終わった9月3日～4日で、ここ数年の恒例行事であるCanon那須工場の見学に行ってきました。最新機器の技術説明や製造過程を見学するとともに、千本松牧場にも立ち寄り、国試に向けての英気を養ってきました。

現在は後期期末試験直前ということもあり、日々勉学に勤しむ毎日をごしております。



2) 2年生(44期生)の様子

ただでさえ行事の少ない放射線科の2年生。学内体育祭が中止となり、お楽しみ要素が更に減ってしまいました。そんな中でも関東放射線技師教育施設体育大会(連合体育大会)では他施設の学生さんと交流を図り、高校時代の友人と再会したなんて話もありました。

8月には放射線取扱主任者試験を受験し、2年生2名が第1種放射線取扱主任者試験に合格することができました。日頃積み重ねた努力が報われた瞬間でした。

8月末から始まった臨床実習では、初めての社会経験となる学生も多く、不安を抱えながらのスタートでした。実習を終え、後期課程が始まった今では、会話に専門用語が多く登場するようになり、医療現場での成長を感じさせます。放射線技師としての会話が少しずつできるようになってきております。



3) 1年生(45期生)の様子

近年、入学前から既に学生同士で交友関係を築いているケースが多々見られます。入学試験で一緒だったとか、体験入学で会ったことがあるとか、その程度の一瞬の出会いからコミュニティが生まれているようです。コミュニケーション能力が低いとも言われる世代ですが、本学の学生は明らかに高い方だと思います。

その中でも、今年の1年生は学生間での仲が非常に良い。例年行われている体育祭などの学内行事がほとんど中止となるなか、中間試験、期末試験を遅く乗り越えています。分担して調べたり、得意な学生が苦手な学生に教えてあげたりするなど、国試を乗り越えるための相互協力体制が既に構築されつつあります。

撮影学や機器学など初めて触れる内容に苦戦しながらも、元気に頑張っています。

また本学は国立科学博物館とパートナーシップ契約をしております。真夏の暑さが全然和らぐ気配のない9月26日(木)に見学に行きました。学生はグループ単位で見学し、放射線に関する展示を見つけてはメモを取っておりました。引率をした身としては、展示内容よりも皆で出掛けたことが楽しそうに映りましたが、これもまた良しです。



同窓生からのメッセージ

同期会を開催して

平成6年3月卒業 泉谷 千穂(旧姓一条)

11月上旬、平成2年入学の25期生を中心としたメンバーで同期会を開催しました。遠方にいる同期生と会う計画があり、せっかくなら同期生に声をかけてみようと言うことがきっかけで開催しました。しかし、学生時代は、携帯はもちろん、メールアドレスすらなく、友人との連絡はもっぱら電話でした。点と点をつないで40名程度とつながることができました。業務多忙や、親御さんやご本人の体調により出席がかなわない方がいましたが、20名ほどの参加を得ることができました。

さて、久々の再会当日、会場に集まるも、顔を見合わせ、はじめのうちは誰?だれ?という様子でしたが、30年という月日を感じない意気投合した雰囲気のまま3時間があっという間に過ぎていきました。

卒業後、継続して臨床検査技師としてクリニックや病院で勤める方、専門を極め講師などで活躍している方、後輩育成のため教育施設で勤める方、管理職に就いている方、また、業務から離れ、別の分野で活躍している方など、それぞれが個々に応じて活躍の様子を伺えました。自分自身もとても刺激を受けましたし、集まった仲間たちも同じだったようです。

今後、仲間たちとはグループLINEで、思い出や情報を共有していきたいと考えています。

振り返ってみると、企画して良かったと感じています。参加した仲間からの多くの感謝の言葉に頂きましたが、「参加してくれてありがとう。元

気でいてくれてありがとう。」とお伝えしたいです。また、開催を手伝ってくれた仲間にも改めて御礼申し上げます。

今回は、連絡のついた限られたメンバーでの開催でした。連絡先がわからない仲間もまだ沢山います。次回また同期会を開催する時には1人でも多くの参加がある事を願っています。これを読んで自分も同期!という方は是非、学校にいる水越さん(現井上さん)にご一報下さい。

今回この投稿にお誘いくださった同窓会役員の方に深謝いたします。

診療放射線技術学科 第12期生 元良 健一

東京都立小児総合医療センター 放射線科技師長

東京都立病院放射線技師会 会長

同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

私たち12期生が東洋公衆衛生学院に在学していたのは、今から30余年ほど前になります。振り返ってみるとは諸先輩方や後輩に語ることも憚られるような学生時代だったと反省しています。その頃の私は成績も芳しくなく、春休み中も補講授業を受けることで何とか留年を免れている状況でした。当時お世話になっていた放射線技師養成学科の先生方(木村先生、西山先生、西澤先生)にはご迷惑をおかけしたと反省しております。また、今では良い思い出になっておりますが、2期生の新井先生がご担当されていた「撮影技術学」の『ファイヤーレポート』には本当に苦しめられました。今更ですが、振り返って思い返すと実務に直結した本当に良い授業でしたし、学生の時にもっと丁寧に取り組むべきでした。

そんな学生生活も2年生の中盤になると、一月半ほどの画像診断分野の臨床実習の時期を迎えます。私の実習先は自宅沿線にある昭和大学病院(旗の台)でした。当時の東洋公衆衛生学院は、昭和大学付属病院から技師の先生を非常勤講師として招聘しておりましたので、臨床実習先の施設に見知った先生がいらっしゃるということで、私は緊張と不安の中にも勝手に少し安心感を抱いていたと思います。実習先の昭和大学は若手の診療放射線技師が多く、非常に活力が溢れている印象でした。当時は副技師長として中澤靖夫先生がおられ、若手の放射線技師の方々に対し、非常に熱意のある指導を行っていたのが印象的です。また当時の臨床実習は、技師の先生方と臨床実習生の距離感は現在に比べ緩やかでした。実習後は食事をご馳走していただき、部活やサークルの先輩後輩のような、緊張の中にも温かみがある関わりの中で有意義な臨床実習を過ごさせていただきました。

最終学年では目黒区にある厚生中央病院に、放射線治療と核医学検査の臨床実習にてお世話になりました。この臨床実習で都立病院の入職へ繋がる機会を得ることとなりました。実習中に技師の先生が「今ちょうど都立病院の採用選考の案内を配布しているようだから午前で実習を繰り上げて都庁に願書を貰いに行ってみたら?」とお声をかけていただいたことをきっかけに入都することとなりました。

平成6年当時の都立病院には東洋公衆衛生学院の卒業生はほとんどおらず、都立病院全体でわずか3、4名足らずだったのではないかと思います。

ます。最初に配属された墨東病院に偶然にも東洋公衆衛生学院2期生の先輩が所属されており、その方には公私共に非常にお世話になりました。その後は、荏原病院、駒込病院診断部門、駒込病院放射線治療部門、大塚病院、大久保病院を経て、現在の東京都立小児総合医療センターにて放射線科技師長を務めさせていただいております。

現在の都立病院では、法人・病院職員を併せて44名ほどの東洋公衆衛生学院の卒業生が活躍しております。都立病院放射線科での東洋公衆衛生学院の認知度も、30余年前に比べれば格段に高くなっている印象です。近年、東京近郊には4年生大学の診療放射線技師養成校が増え、東洋公衆衛生学院にとっては就職活動や臨床実習先の確保などにおいて年々厳しい環境になりつつあります。そのような状況においても私たち卒業生は粛々と互いの絆を保つことで、現役生や卒業生にとってより良い環境づくりに貢献できればと思います。最後になりますが、同窓会の皆さまの今後の益々のご活躍と健康を心よりお祈り申し上げます。

▶編集後記

17号から編集委員長を任されることになり、学内の行事やイベントでの写真撮影をサボっていたことを激しく後悔しております。

挿絵として使える写真をまったく所有していませんでした。

次号からは華やかな写真を添えて会報誌を彩りたいと思います。

今後ご支援のほど、よろしくお願い致します。

編集委員長 田中宏和

同窓生からの原稿を募集します!

同窓会会報を同窓生のコミュニティの場にしませんか?

卒業生の活躍を掲載したいと思います。広く原稿を募集していますので、下記メールアドレスまで投稿して下さい。

facebookでも情報発信中

ホームページ @toyoCollegeAlumni

東洋公衆衛生学院 同窓会事務局

151-0071

東京都渋谷区本町 6-21-7

電話番号 : 03-3376-8511

FAX 番号 : 03-3376-4345

メールアドレス: alumni@toyophc.com

